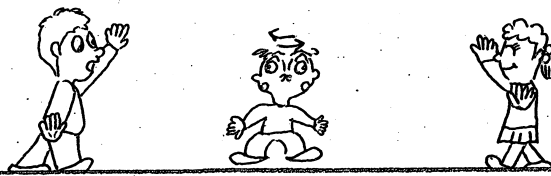


だ、げき
打 撃 手 →



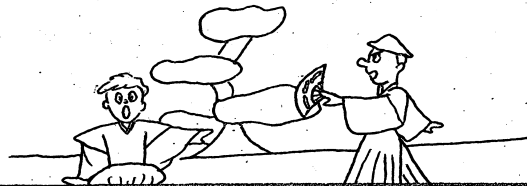
はげしくうつこと。
たたくこと。

はさみ うち →



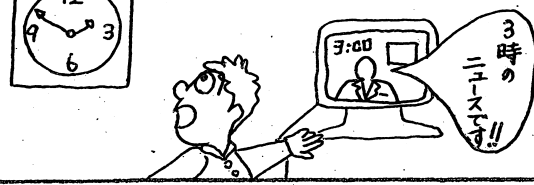
あいて しょうがゆ はさ
相手を両側から狭む
ようにして攻撃すること

きょう げん
狂 言 →



どうり ことば
道理にかなぬばい言葉。
また むろあじだいのころ げいのう
又は、室町時代頃の芸能。

と けい くる
時計が狂う →



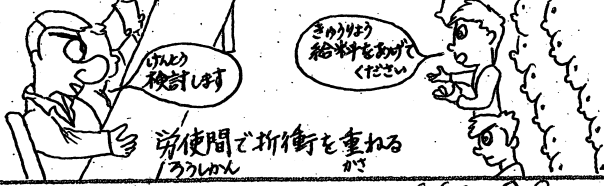
と けい ちようし
時計の調子がいつも
ちが
と違う。

しょう どう
衝 動 →



ひと こころ かんかく
人のじや感覚をつ
きうごかすこと。

せつ しょう
折 衝 →



あいて もんだい かいけつ
相手と問題を解決す
るために話し合うこと。

だん あつ
弾 圧 →



つよ
強くおさえつけること。

ひ
弾 く →



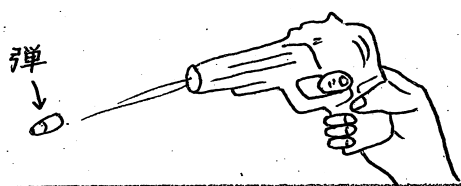
がっせ な
楽器をかき鳴らす。
かなでる。

はず
弾 み →



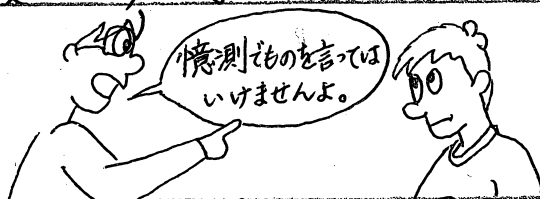
はずむこと。
はねかえること。

たま
弾 →



はじきうつ、たま。

おくそく
憶測 →



ものごと じじょう ひと こと
物事の事情や人の心を
すいそく
推測すること。

つい おく
追憶 →



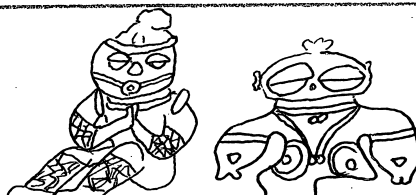
す こと おも だ
過ぎ去ったことを思い出す
こと。

ぐう すう
偶数 →

2, 4, 6, 8, 10, 12, 14,

ゆ き せいすう
2で割り切れる整数。

ど ぐう
土偶 →



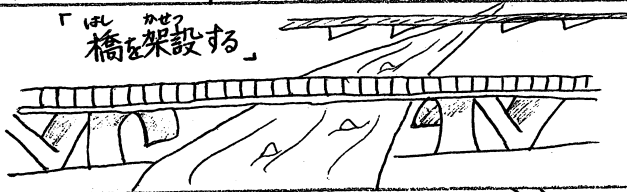
ひと どうぶつ
人や動物をかたどった
つちせいじん
土製品。

か ぐう
架空 →



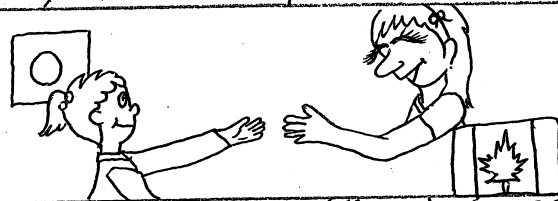
じじつ
事実でないこと。

か せつ
架設 →



はし せん せいび
橋や電線などを設備
すること。

か かし
架け橋 →



はしわたし。
とりもち。
なかだち。

ゆう すい
湧水 →



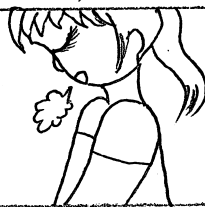
みず いずみ
湧き水。泉

わ げ
湧き出る →



しぜん じ
自然にある水出る。

と いき
吐息 →



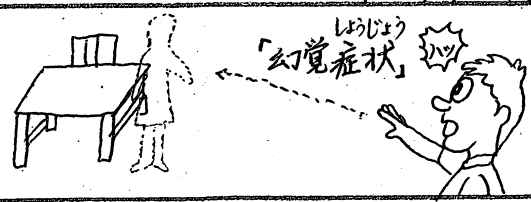
ためいき。

は、だ
吐き出す →



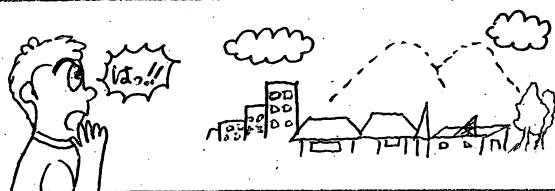
いちどきに内から
と、だ
外へ出す。

げん かく
幻覚 →



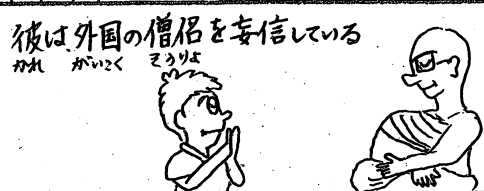
じっさい もの
実際には物が無いのに
その物が見えてしまう現象。

まぼろし やま
幻の山 →



じつざい すかた じゆ
実在しないのにその姿が実
在するように見える山。

もう しん
亡女信 →



りゆう しん
理由もなく信すること。

めい もう
迷女 →



じつたい しんじつ
実体のないものを真実
のように思ひ込むこと。

きん が しん ねん
謹賀新年 →



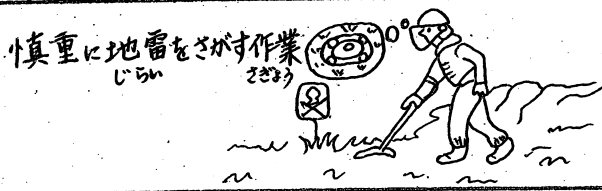
しんねん
つしんで新年のよろこび
も申し上げるの意。

つし
謹んで →



うやうやしく。

しん ちよう
慎重 →



ちゆういびか かるがる
注意深く、軽々
しく行動しないさま。

つし ぶか
慎重み深い →



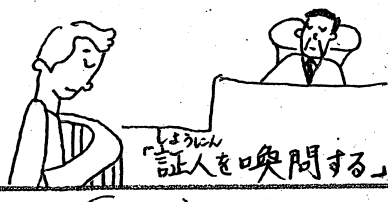
さ
差してがましいところか
なく控え目である。

かん き
喚起 →



おこ
よび起すこと。

かん、もん
喚問 →



おひや きかん
公けの機関が、
よびだして問いたたす
こと。

どう よう
動揺 →



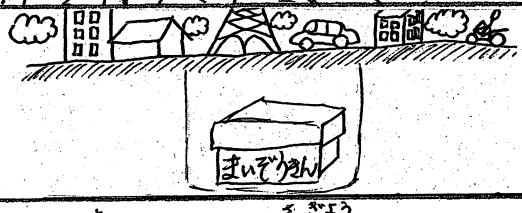
ま ふあんてい
気持ちが不安定に
なること。

ゆ
揺する →



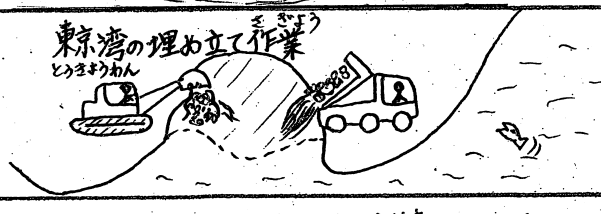
うご
ゆり動かす。

まい ろう
埋蔵 →



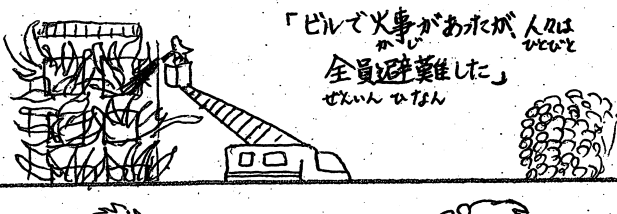
しゃ ちか
主として地下に
うずめてかくすこと。

う た
埋め立て →



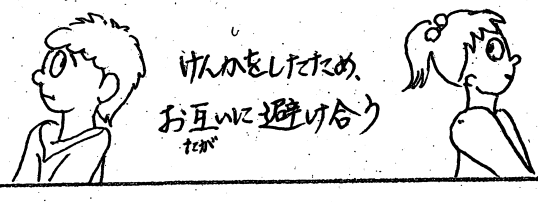
うめたてること。

ひ なん
避難 →



さいたん ほか
災難をさけて他の
ところへのがれること。

さ あ
避け合う →



たが ろ、
互いに向かい合えないよう、
その物事を身辺からほ
る。